この人に会いました

清水道夫新教育長にお話を伺いました。

湯沢町教育長

清水道夫 さん

（南魚沼市 塩沢）

湯沢町の教育について感じたこと

高校教員として異動により、与板高校から昭和50年4月、六高湯沢分校に3年、引き続き独立した湯沢高校に1年と、4年間お世話になり、この度、縁があって義務教育の向上に携わることになりました。

私は、この3月末まで新潟県教育庁保健体育課長として、定例教育委員会などを通して県下市町村学校の現状について見聞する中で、湯沢町は全体的に安定しているものの少子化等に伴う教育環境の整備が急務と思っていました。

実際に4月から勤務して見ると現状の利点もありますが、諸々の課題を解決するには英断の時機ではないかと考えました。行政としては何よりも重要なことは、学力や体力の向上、不登校やいじめの減少、複式学級の解消、安全・安心な校舎など、湯沢町の子どもたちが共通の環境で等しく教育を受けることの構想を示すことであり、合併しない独立自尊の町として県内は元より全国にアピールできる施策が重要と考えております。そして、将来において子どもたちや町民が自信と誇りを持ち、生き甲斐のある人生を歩むようになることです。

今後の湯沢町の教育の在り方について

現状を踏まえ夢ある教育を如何に展開するかについて考えるに当たり、先駆的に取り組んでいる公立小中学校の視察が百聞は一見に如かずのとおり、東京・神奈川・富山に行ってきました。まさに目からうろこが落ちる心境でした。

県内の他の市町村においても、少子化や合併に伴い教育改革の中で統廃合が検討されていますが、特に大きくなった市などは平等な教育環境という観点から理想的な施策が難しい状況にある中で、湯沢町の規模であればこそ可能である教育構想をセクトでなく町全体として考えることが重要ではないでしょうか。

このことから、小学校の統合と従来の小学校6年、中学校3年という壁を取り払い、現行制度の範囲内で、9年間を同じ屋根の下で学ぶ小中一貫教育が現代社会を生きる上で必要と考えています。併せて保育園と小学校との連携は全国に誇れる制度かと確信します。

現在、新潟県内において、中学校3年と高校3年の6年間の一貫教育である中等教育学校が7校あり、すべての学校が成果を上げて注目されております。湯沢町近隣では、旧津南高校跡地に開校した津南中等教育学校があり特色ある教育を展開しております。

また、全国の学校法人においても幼稚園から大学までの一貫教育の評価などご承知かと思います。

地域との協働について

湯沢町の子どもたちが共通の環境で育まれるとともに、町内の大勢の方から支援していただきたいと考えています。

例えば、園児体験活動、総合学習、生活科、図書、給食、環境整備、安全対策、部活動などの支援を通して、園児児童生徒や教職員と交流を図ることにより、さらに教育効果を高めることができるとともに地域とのつながりが深くなります。

広報常任委員会
委員長 柿崎直治
師田 保

後編記集

絆［きずな］

夏場の天候不順による低温や日照不足で心配された、湯沢米コシヒカリも、9月上旬以後天候に恵まれ、平年並みの収穫量が確保されたようです。

天候不順を吹き飛ばすように、夏の甲子園大会では日本文理高校が県勢初の決勝進出、新潟人らしい驚異の粘りで、準優勝という活躍を見せ、多くの感動を与えてくれたのに続き、2月に苗場で行われたスキー競技会で幕を開けた「トキメキ新潟国体」も、県内全域で熱戦を繰り広げ、45年ぶりの天皇、皇后杯獲得の新潟県の総合優勝で幕を閉じ、私たちにスポーツの素晴らしさと感動を与えてくれました。

湯沢町の社会体育のスローガンが「楽しもうスポーツ、つくろう仲間と健康」であるように、誰でも気軽にスポーツを楽しみ、声をからして応援し、多くの人達が支える「する、見る、支える」がスポーツの3大要素といわれています。

国体を通じて、その下地はできたはずです。わが町においても更にスポーツ活動の活性化を図り、「誰でも、どこでも、いつでも」スポーツを楽しめる環境をつくり、草の根の地域スポーツを元気づけることが、町民間の交流を深め、絆を築くきっかけづくりになることと思われます。

広報委員 森下昌次

編集
湯沢町議会
広報常任委員会